
 ニ ュ ー ス

日本の火山活動概況（2014年11月～12月）

気 象 庁

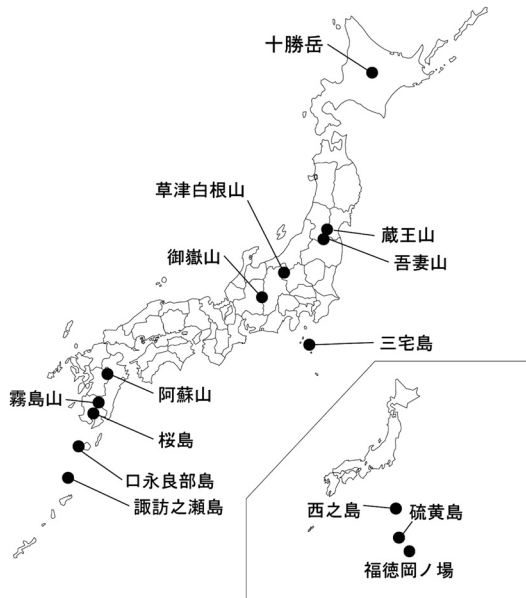


図 1. 2014年11月～12月に目立った活動があった火山

十勝岳 (43° 25′ 04″N, 142° 41′ 11″E)

GNSSによる観測では、2006年以降、62-2火口浅部の膨張を示すと考えられる変動が続いており、2014年7月頃から北海道立総合研究機構地質研究所が観測している62-2火口近傍の観測点で変化率が大きくなったことから、浅部の膨張がこれまでよりもさらに浅い領域に及んでいる可能性がある。

また、62-2火口及び大正火口の近傍に設置してある地震計の常時微動の振幅レベルは、11月頃から増大し、その後低下傾向がみられるが、10月頃のレベルよりも高く、山体浅部の熱水活動は引き続き高い状態である可能性がある。

これらのことから、12月16日に火口周辺警報を発表し、噴火警戒レベルを1（平常）から2（火口周辺規制）に上げた。

蔵王山 (38° 08′ 37″N, 140° 26′ 24″E)

火山性微動が11月に4回、12月に2回発生し、微動発生時には傾斜計で変動がみられた。

11月20日に陸上自衛隊の協力により実施した上空からの観測では、御釜周辺に噴気及び地熱域はみられず、湖面に変色等の変化も認められなかった。また、前回の観測（2014年1月20日）と比較して、丸山沢噴気地熱地帯の噴気と地熱域に大きな変化はなかった。

吾妻山 (37° 44′ 07″N, 140° 14′ 40″E)

12月12日06時21分頃に火山性微動が発生し、微動発生時には傾斜計の変動がみられた。微動の継続時間は約35分、最大振幅は3.3μm/s〔吾妻小富士東観測点（大穴火口の東約2km）：上下成分〕であった。

火山性地震は、10月以降、やや多い状況で経過していたが、微動発生の数日前から多い状況になっており、12月の地震回数は576回と、1998年以降の月別の地震回数として最多となり、振幅のやや大きな地震も発生するなど、地震活動は活発な状況になっている。

大穴火口の噴気活動はやや活発な状態が続いている。

これらのことから、12月12日に火口周辺警報を発表し、噴火警戒レベルを1（平常）から2（火口周辺規制）に上げた。

草津白根山 (36° 38′ 38″N, 138° 31′ 40″E)

3月上旬から湯釜付近及びその南側を震源とする火山性地震が、消長を繰り返しながら多い状態が続いていたが、8月20日以降少ない状態で経過している。地殻変動観測によると湯釜付近の膨張を示す変動が認められている。東京工業大学によると、北側噴気地帯のガス成分にも活動活発化を示す変化がみられている。また、全磁力観測による5月以降の湯釜近傍地下の温度上昇を示すと考えられる変化は、7月以降停滞している。

11月4～5日及び10～11日に実施した現地調査では、北側噴気地帯及び水釜火口の北から北東側にあたる斜面で引き続き明瞭な噴気が確認されたが、赤外熱映像装置による地表面温度分布観測で前回（2014年7月10日）調査時と比較して特段の変化は認められなかった。また、12月10日に群馬県の協力により実施した上空からの観測では、赤外熱映像装置による観測で、湯釜火口内北側斜面、北側噴気地帯の高温領域の分布に、前回（2014年9月24日）の観測と比較して、特段の変化は認められなかった。

御嶽山 (35° 53′ 34″N, 137° 28′ 49″E)

三岳黒沢及び鈴蘭高原に設置している遠望カメラ、中

部地方整備局が滝越等に設置しているカメラによる観測では、白色の噴煙が火口縁上 100~300m の高さで経過した。

山麓で実施した火山ガス観測では、二酸化硫黄の放出量は、1日あたりおよそ 100~200 トンとやや少ない状態で推移した（観測データはいずれも速報値）。

火山性地震は少ない状態で経過したが、8月以前の状況には戻っていない。

11月21日03時07分頃及び16時12分頃、22日14時55分頃、23日19時25分頃にいずれも振幅の小さい火山性微動が発生した。継続時間は最も長いもので約2分20秒（21日03時07分）であった。

剣ヶ峰山頂の南東約3kmに設置している傾斜計では、9月27日の噴火発生の7分前から山側上がりの変化がみられ、噴火とともに山側下がりとなるような変化が観測され、その後も緩やかな山側下がりの変化が続いている。

国土地理院のGNSSデータの解析によると、長期的には9月上旬頃から御嶽山を挟む基線でごくわずかな伸びがみられ、また、9月下旬頃からごくわずかな縮みの傾向がみられ、12月までに9月上旬頃の基線長に戻っている。

三宅島 (34° 05' 37" N, 139° 31' 34" E)

火山ガス放出量は、長期的に減少傾向にあり、2013年2月以降はやや少量となっている。三宅村によると、山麓ではまれにやや高濃度の二酸化硫黄が観測されている。

火山性地震はやや少ない状態で経過した。震源は山頂火口直下に分布しており、これまでと比べて特段の変化は認められなかった。火山性微動は観測されなかった。

GNSSによる観測では、2000年以降、山体浅部の収縮を示す地殻変動は徐々に小さくなり、2013年頃から停滞している。一方、島内の長距離の基線で2006年頃から伸びの傾向がみられるなど、山体深部の膨張を示す地殻変動が継続している。

今期間実施した現地調査では、山頂火口南側内壁に位置する主火孔及びその周辺で引き続き高温領域が認められ、火口内の地形及び高温領域の分布に特段の変化は認められなかった。

西之島 (27° 14' 49" N, 140° 52' 28" E)

海上保安庁、海上自衛隊等の観測によると、噴火及び溶岩の流出が継続し、新たに形成された陸地の拡大が確認された。

12月4日に国土地理院が防衛省の協力で撮影した空中写真を解析したところ、西之島で最も高い地点の標高は、約110mであった（2014年7月4日の最高標高は約74m）。

東京大学地震研究所が、噴火活動により新たに形成された部分の面積、噴出量、噴出率について12月23日までの状況をまとめたところ、噴出量は8000~9000万m³で、噴出率は10~20万m³/dayと推定され、活発な状況が続いている。

硫黄島 (24° 45' 02" N, 141° 17' 21" E (摺鉢山))

硫黄島の海上自衛隊からの連絡によると、12月16日08時20分頃天山付近で数秒間、約10~15mの黒茶色の噴出を確認し、現地では湿った泥のようなものが散らばっており、靴に付着する程度であったが、臭いや音は確認されなかった。一時的に噴出の勢いが強まり、泥を噴出したものと推定される。黒茶色の噴出現象が確認された時間帯の地震活動には特段の変化は認められなかった。

ミリオンダラーホールでは、2012年2月上旬から水蒸気爆発が度々発生しているが、今期間、噴火の発生はなかった。

火山性地震は、やや少ない状態で経過した。火山性微動が時々発生したが、火山性微動が観測された時間帯に、その他の観測データに特段の変化は認められなかった。地殻変動は2月下旬頃から隆起の傾向、9月頃から停滞の傾向がみられていたが、12月上旬頃から再び隆起の傾向である。

福德岡ノ場 (24° 17' 05" N, 141° 28' 52" E)

11月26日に第三管区海上保安本部が実施した上空からの観測及び12月26日に海上自衛隊が実施した上空からの観測では、福德岡ノ場付近では変色水等は認められなかった。

福德岡ノ場ではしばしば火山活動によるとみられる変色水や浮遊物が確認されており、2010年2月3日には小規模な海底噴火が発生している。

阿蘇山 (32° 53' 01" N, 131° 05' 49" E (中岳))

中岳第一火口では、11月25日から噴火活動が活発になり、断続的に噴火が発生し、期間を通して熊本県、大分県、宮崎県の一部の地域で降灰が観測された。11月27日には灰白色の噴煙が火口縁上1,500mまで上がった。12月9日夜間の噴火では、小さな噴石が強風に流されて中岳第一火口の南西側約1km付近に落下するのを遠望カメラで確認した。

11月25日及び26日に採取した噴出物を独立行政法人産業技術総合研究所が分析した結果、マグマ噴火が発生していることを示す結果が得られた。

11月27日に実施した現地調査では、ストロンボリ式噴火を観測した。また、中岳第一火口の南側で火山灰が

約7cm堆積し、火口周辺ではこぶし大のスコリアを確認した。また、11月27日に国土交通省九州地方整備局の協力により実施した上空からの観測では、中岳第一火口中央部付近(141火孔)から、火山灰を含む噴煙が火口縁上1,000mまで上がり、火口周辺に多量の降灰を確認した。

11月25日から29日にかけて熊本大学教育学部が実施した現地調査によると、火山灰の総量は15万トン程度と概算されている。

火山性微動の振幅は、11月25日07時頃から大きくなり、その後も消長を繰り返しながら大きい状態で継続した。

今期間実施した現地調査では、二酸化硫黄の放出量は1日あたり2,000~3,100トンと多い状態で経過した。

GNSSによる観測では、中岳第一火口の西側の基線で、わずかな伸びの傾向が認められた。古坊中に設置した傾斜計では、11月25日06時過ぎから27日08時頃にかけて東上がり(火口上がり)の傾向が、12月10日頃から西上がり(火口下がり)の傾向が認められた。

霧島山(新燃岳)(31°54'34"N, 130°53'11"E)

新燃岳では、今期間噴火の発生はなかった。

新燃岳直下を震源とする火山性地震は少ない状態で経過した。

GNSSによる観測では、新燃岳の北西数kmの地下深くにあると考えられるマグマだまりの膨張を示す地殻変動は、2011年12月以降鈍化・停滞していたが、2013年12月頃から伸びの傾向がみられている。

12月18日に海上自衛隊第72航空隊鹿屋航空分遣隊の協力により実施した上空からの観測では、前回(2014年10月7日)の観測と比較して、火口内に蓄積された溶岩の形状に特段の変化は認められなかった。溶岩にはこれまでと同様に多数の凹凸及び亀裂がみられ、水たまりの分布状況も前回と同様であった。火口内では、溶岩の縁辺部を中心に複数の噴気孔が見られ、白色の噴気が火口内にとどまる程度にわずかに上がっていた。また、2008年の噴火で形成された西側斜面の割れ目付近からの噴気は認められなかった。赤外熱映像装置による観測では、前回と比較して熱異常域の分布に大きな変化はなく、火口内に蓄積された溶岩の縁辺部(北側、東側、南側)、及び西側斜面の割れ目付近の一部に熱異常域が引き続き認められた。新燃岳火口周辺域には、熱異常域等は認められなかった。

霧島山(えびの高原(硫黄山)周辺)(31°56'49"N, 130°51'14"E(硫黄山))

えびの高原(硫黄山)周辺では、火山性地震が時々発

生しており、11月には37回、12月には55回観測された。火山性微動は観測されなかった。

GNSSによる観測では、えびの高原(硫黄山)周辺の一部の基線で、2013年12月頃から伸びの傾向がみられている。

11月12日及び17~18日に行った現地調査では、硫黄山や韓国岳北側に噴気は認められず、赤外熱映像装置による観測では、硫黄山、韓国岳北側に熱異常域は認められなかった。

桜島(31°34'38"N, 130°39'32"E(南岳))

昭和火口では、活発な噴火活動が継続した。噴火の回数は11月が52回(そのうち爆発的噴火は30回)、12月が41回(そのうち爆発的噴火は32回)であった。爆発的噴火のうち3回(11月1回、12月2回)では、大きな噴石が3合目まで飛散した。噴煙の高さの最高は、11月30日00時48分に発生した爆発的噴火による火口縁上3,800mであった。同火口では、夜間に高感度カメラで明瞭に見える火映を時々観測した。

南岳山頂火口では、11月7日に噴火が発生した(2012年12月2日以来)。

火山性地震の月回数は少ない状態で経過し、噴火に伴い火山性微動が発生した。今期間実施した現地調査では、二酸化硫黄の放出量は1日あたり1,000~1,700トンとやや多い状態であった。

島内の傾斜計では、7月中旬から山体が沈降する傾向がみられていたが、12月下旬頃から山体が隆起する傾向がみられている。GNSSによる観測では桜島島内の基線で、2014年1月頃から伸びの傾向がみられていたが、7月頃から停滞している。

鹿児島地方気象台における降灰量は、月合計で11月が139g/m²、12月が15g/m²であった。鹿児島県が実施している降灰の観測データから推定した火山灰の総噴出量は、11月が約30万トン、12月が約40万トンであった。

口永良部島(30°26'36"N, 130°13'02"E)

新岳火口の噴煙活動は、8月3日の噴火以降、やや活発となっており、白色の噴煙が概ね火口縁上100~200mで経過し、噴煙の高さの最高は800mであった。

火山性地震は時々発生しており、11月には2回、12月には14回観測された。火山性微動は観測されなかった。

今期間に実施した現地調査では、新岳火口及び西側割れ目付近や、新岳の南西斜面で噴気を確認した。赤外熱映像装置による観測では、新岳火口縁の西側、西側の割れ目付近及び南西斜面の噴気地帯で熱異常域を確認した。12月18日に海上自衛隊第72航空隊鹿屋航空分遣

隊の協力により実施した上空からの観測では、新岳火口では白色の噴煙が火口縁上 50 m まで上がっており、新岳火口の西側割れ目付近及び南西斜面で噴気を確認した。また、赤外熱映像装置による観測では、新岳火口の西側から南西側にかけての熱異常域の分布に特段の変化は認められなかった。

今期間に実施した火山ガス観測では、二酸化硫黄の放出量は、1日あたり 600~1,900 トンと多い状態で経過した。

諏訪之瀬島 (29° 38' 18" N, 129° 42' 50" E (御岳))

御岳火口では、爆発的噴火が 12 月に 5 回発生したほか、噴火も時々発生し、噴火に伴う灰白色の噴煙が最高で火口縁上 1,200 m まで上がった。期間を通して夜間に高感度カメラで火映を時々観測した。

十島村役場諏訪之瀬島出張所によると、今期間、集落(御岳の南南西約 4 km) で降灰は確認されなかった。

(お知らせ) 最新の火山活動解説資料は気象庁ホームページの以下のアドレスに掲載しています。

URL http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.htm
(文責：気象庁地震火山部火山課 橋本祐樹)

○公募等

締切等が過ぎているものも記録のため掲載してあります。

最新の情報につきましては、メーリングリスト等にて随時ご案内しております。

○人事公募

【東京工業大学大学院理工学研究科地球惑星科学専攻】(再送)

1. 募集人員 地球惑星科学専攻専任教授 1名
専門分野：固体地球科学
 - (1) 主に、固体地球物理学、地質学、岩石・鉱物学、地球化学などを専門とする方
 - (2) 本専攻の他分野に広く関心を持ち、他研究室との共同研究に積極的に取り組む方
 - (3) 大学院・学部の教育研究・運営を通して、次世代研究者育成に意欲的に取り組む方
2. 応募資格：博士学位を有する方
3. 着任時期：採用決定後、できるだけ早い時期
4. 提出書類
 - (1) 履歴書(市販のもので可)
 - (2) これまでの研究・教育の実績(2,000字程度)
 - (3) 今後の研究・教育の計画・抱負(2,000字程度)

(4) 研究業績リスト

A. 査読付き原著論文(英文による国際雑誌掲載のもの)

B. 著書、その他特記すべき出版物

- (5) 主な原著論文の別刷(コピー可) 5編以内
 - (6) 科学研究費補助金などの外部研究資金獲得実績リスト(過去5年分、代表者・分担者別)
 - (7) 応募者について参考意見をうかがえる方の氏名・所属・E-mail アドレス(国内外、各2名)
- 注 選考の過程で必要が生じた場合、追加して書類を提出していただくことがあります。

5. 応募締め切り：2014年12月10日(水) 必着

6. 応募書類の送付先：次の URL をご参照下さい

http://www.geo.titech.ac.jp/epss/office/jinji/Prof_chiwaku_J.pdf

7. 問い合わせ先 中本泰史

e-mail : nakamoto@geo.titech.ac.jp,

phone : 03-5734-3535

その他詳細は、http://www.geo.titech.ac.jp/epss/office/jinji/Prof_chiwaku_J.pdf をご覧下さい。

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに12月1日送信しました)

【産業技術総合研究所】

平成 27 年度イノベーションスクール生を公募します。

将来、イノベーション創出を担う産業技術人材として活躍する意欲のある方からの応募をお待ちしています。職務内容・応募資格等の詳細については、産総研イノベーションスクールホームページをご参照下さい。

<https://unit.aist.go.jp/inn-s/ci/employment/index.html>

応募締切：2015年1月16日(金) 24時 「必着」

※2014年12月と2015年1月に公募説明会を行います。

開催日時については、決定次第、イノベーションスクールホームページにてお知らせいたします。

<http://unit.aist.go.jp/inn-s/ci/index.html>

問い合わせ先：

(独)産業技術総合研究所

イノベーションスクール事務局

電話：029-849-1600

メール：school-saiyou-ml@aist.go.jp

URL：<http://unit.aist.go.jp/inn-s/ci/index.html>

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに12月5日送信しました)

【東京工業大学 大学院理工学研究科 地球惑星科学専攻】
准教授 1名(専任)

専門分野：地球惑星進化学
 応募締切：2015年2月5日
 連絡先：

〒152-8551 東京都目黒区大岡山 2-12-1 12-20
 東京工業大学大学院理工学研究科 地球惑星科学専攻
 綱川秀夫

詳細 web ページ：

http://www.geo.titech.ac.jp/epss/office/jinji/AssocProf_EPS_J.pdf

http://www.geo.titech.ac.jp/epss/office/jinji/AssocProf_EPS_eng.pdf

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに12月10日送信しました)

【東京工業大学 大学院理工学研究科 地球惑星科学専攻】
 助教 1名(専任)(任期5年, 再任1回可3年)

専門分野：地球物理学, 惑星物理学, 宇宙物理学
 応募締切：2015年2月5日
 連絡先：

〒152-8551 東京都目黒区大岡山 2-12-1 12-20
 東京工業大学大学院理工学研究科 地球惑星科学専攻
 中本泰史

詳細 web ページ：

http://www.geo.titech.ac.jp/epss/office/jinji/Assist_EPS_j.pdf

http://www.geo.titech.ac.jp/epss/office/jinji/Assist_EPS_eng.pdf

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに12月10日送信しました)

【京都大学大学院理学研究科附属地球熱学研究施設】

職 種：研究員(非常勤)

募集人員：1名

勤務場所：附属地球熱学研究施設(大分県別府市)又は
 火山研究センター(熊本県阿蘇郡)

応募資格：着任の時点で、博士学位を有すること。

研究分野および職務内容：

研究分野：地球熱学および関連分野

本施設に所属している研究者やその研究分野等の詳細については、HP等(<http://www.vgs.kyoto-u.ac.jp>)を参照のこと。なお、応募にあたっては、本施設の教員と必ず事前に連絡を取り、研究計画について相談すること。相談の適任者が見出せない場合は、施設長(kagiyama*aso.vgs.kyoto-u.ac.jp)と相談すること。(※を@に変えてください)

職務内容：本施設の研究者と協力して、施設が行ってい

る研究分野あるいは、その関連分野における研究を進展させると共に、地球熱学の新しい領域を開拓する。

着任時期：平成27年4月1日以降できるだけ早い時期
 任 期：平成27年4月1日～平成28年3月31日まで

※以後更新する場合あり(最大通算3年まで)

勤務形態：週19時間勤務(時間雇用教職員)

※土・日曜, 祝日, 年末年始, 創立記念日および夏季休業日を除く

※本学基準に基づき年次休暇を付与※必要に応じて超過勤務を命じる場合が有ります。

給与・手当等：時間給3,900円本学支給基準に基づき, 超過勤務手当を支給(その他の手当, 賞与, 退職手当は支給しません)

社会保険：労災保険に加入

応募方法および必要書類：

1. 履歴書 氏名, 生年月日, 住所, 連絡先(電話およびE-Mailも記載) 学歴(高校入学以降の入学年月日, 卒業年月日), 職歴, 資格, 賞罰, 学会賞など
2. 業績目録 査読論文, 査読なし論文, 学会発表など(博士号(題目, 取得大学, 時期も記載))
3. 研究の概要および今後の研究の抱負(各A4, 1枚程度)
4. 主要論文3編以内

応募方法：上記書類をPDFファイル(1,2,3は同一ファイル)で下記応募先に送付すること。

E-Mail：kagiyama*aso.vgs.kyoto-u.ac.jp(※を@に変えてください)

応募締め切り：平成27年2月10日(火曜日)必着

問合せ先：

〒869-1404 熊本県阿蘇郡南阿蘇村河陽 5280

京都大学大学院理学研究科附属地球熱学研究施設火山研究センター 鍵山恒臣

電話 0967-67-0022(阿蘇) 075-753-3938(京都分室)

E-Mail：kagiyama*aso.vgs.kyoto-u.ac.jp(※を@に変えてください)

その他：

提出していただいた書類は、採用審査にのみ使用します。正当な理由なく第三者への開示、譲渡および貸与することは一切ありません。なお、応募書類はお返ししませんので、あらかじめご了承ください。

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに12月22日送信しました)

【山梨県富士山科学研究所】

1. 採用予定人員：1名

2. 募集職種：非常勤研究員(火山防災研究に関する分野)
3. 雇用期間：平成27年4月1日から平成31年3月31日(4年間)を予定。ただしこの間にあっても年度ごとの更新制となる。
4. 勤務形態：週5日間、35時間勤務
5. 報酬等：県の正規の研究職に準じて積算された額を支給する。職員宿舎(築18年)入居可能
6. 保険等：雇用保険、健康保険、厚生年金保険に加入する。
7. 応募資格：
次の各号に該当し、地方公務員法第16条の規定を準用した欠格事項に該当しない者。
1. 火山学について専門的知識を有し、フィールドワークができる者
 2. 火山学的研究能力、特に火山岩石学に関する研究能力を有する者
 3. 研究部で遂行している重点化研究課題(火山防災研究部HP参照)等に協力して研究できる者
 4. 博士の学位または是に準ずる業績、能力を有する者
8. 採用予定日：平成27年4月1日
9. 提出書類
1. 履歴書(別紙第1号様式 当研究所ホームページからダウンロードできます。)
 2. 研究業績書(別紙第2号様式 当研究所ホームページからダウンロードできます。)
・著書、学術論文、その他を項目別に分けて記載する。なお、論文については、査読のある雑誌に掲載されたものと、それ以外のものに分けて記載すること。
・共著の場合は、共著者名を全員記載すること。
・学位取得論文については、その旨を明記すること。
 3. 学位、学歴を証明する書類
 4. 写真(タテ4cm×ヨコ3cm、裏面に氏名を記入すること)
 5. 研究業績の概要(A4用紙に1~2枚程度、様式は任意)
 6. 今後の研究計画及び抱負(A4用紙に1枚程度、様式は任意)
 7. 主要論文の別刷(コピー可)5編以内
 8. 推薦書(1通、様式は任意、自薦の場合は照会可能な方2名の氏名、所属、連絡先記載)
10. 書類提出締切：
・平成27年1月30日(金)(必着)(郵送「書留」としてください。)
11. 書類提出後のスケジュール
・書類選考を行い、書類選考に合格した方のみ面接を行います。
- ・面接の日程等については後日、該当者に連絡します。なお、書類選考・面接等に当たっての費用は各自の負担でお願いします
- ・面接会場：山梨県富士山科学研究所
12. 提出先及び問い合わせ先
〒403-0005 山梨県富士吉田市上吉田字剣丸尾 5597-1
山梨県富士山科学研究所 総務課
電話 0555-72-6211
URL <http://www.mfri.pref.yamanashi.jp>
公募に関する詳細
<http://www.mfri.pref.yamanashi.jp/recruit2015/recruit2015.html>
- (上記のお知らせは火山学会メーリングリストに1月6日送信しました)
- 【山梨県富士山科学研究所】
1. 採用予定人員：1名
 2. 募集職種：非常勤研究員 広報・交流(サイエンスコーディネーター)に関する分野
 3. 雇用期間：平成27年4月1日から平成30年3月31日(3年間)を予定。ただしこの間にあっても年度ごとの更新制となる。
 4. 勤務形態：週5日間、35時間勤務
 5. 報酬等：県の正規の研究職に準じて積算された額を支給する。職員宿舎(築18年)入居可能
 6. 保険等：雇用保険、健康保険、厚生年金保険に加入する。
 7. 応募資格：
次の各号に該当し、地方公務員法第16条の規定を準用した欠格事項に該当しない者。
1. 自然科学および社会科学に対する広い視野を持ち、環境教育関連の領域の研究に従事したことのある者
 2. 研究成果や科学的知見を、環境教育プログラムの作成に活用する等、一般向け啓発活動の実践経験がある者
 3. ホームページの作成が出来る者
 4. アンケート調査を計画、実施した経験を持ち、結果の統計処理が出来る者
 5. 修士以上の学位または是に準ずる業績、能力を有する者
8. 採用予定日 平成27年4月1日
9. 提出書類
1. 履歴書(別紙第1号様式 当研究所ホームページからダウンロードできます。)
 2. 研究業績書(別紙第2号様式 当研究所ホームページからダウンロードできます。)

- ・著書、学術論文、その他を項目別に分けて記載する。
なお、論文については、査読のある雑誌に掲載されたものと、それ以外のものに分けて記載すること。
- ・共著の場合は、共著者名を全員記載すること。
- ・学位取得論文については、その旨を明記すること。
- 3. 学位、学歴を証明する書類
- 4. 写真（タテ4 cm × ヨコ3 cm、裏面に氏名を記入すること）
- 5. 研究業績の概要（A4用紙に1～2枚程度、様式は任意）
- 6. 今後の研究計画及び抱負（A4用紙に1枚程度、様式は任意）
- 7. 主要論文の別刷（コピー可）5編以内
- 8. 推薦書（1通、様式は任意、自薦の場合は照会可能な方1名の氏名、所属、連絡先を記載でも可）
- 10. 書類提出締切：
 - ・平成27年1月30日（金）（必着）（郵送「書留」としてください。）
- 11. 書類提出後のスケジュール
 - ・書類選考を行い、書類選考に合格した方のみ面接を行います。
 - ・面接の日程等については後日、該当者に連絡します。
 - ・面接会場：山梨県富士山科学研究所
- 12. 提出先及び問い合わせ先

〒403-0005 山梨県富士吉田市上吉田字剣丸尾 5597-1
山梨県富士山科学研究所 総務課
電話 0555-72-6211

URL <http://www.mfri.pref.yamanashi.jp>
公募に関する詳細
<http://www.mfri.pref.yamanashi.jp/recruit2015/recruit2015.html>

（上記のお知らせは火山学会メーリングリストに1月6日送信しました）

【電力中央研究所】
研究課題：火山地質学的手法による火山活動の評価研究
着任時期：平成28（2016）年4月
募集人員：1名
応募資格：博士課程修了者（新卒・既卒いずれも可）
詳細は下記のページをご覧ください
<http://recruit.denken.jp/kadai/#post-1178>
（上記のお知らせは火山学会メーリングリストに1月16日送信しました）

【(独)産業技術総合研究所】
申込み方法・締切・問い合わせ先等はそれぞれの応募

の詳細のページをご覧ください。

1. 活断層・火山研究部門

○研究内容：活動的火山を中心とした火山地域の地質調査と噴出物解析に基づき、噴火履歴及び噴火現象の解明に関する研究を行う。

https://unit.aist.go.jp/hrd/ci/keiyaku_koubo/27-iev_g_0003.html

○研究内容：阿蘇山地域にてMT法による電磁探査を実施し、マグマ溜まりが想定される深部の地下構造を求めめるための3次元解析を行う。

https://unit.aist.go.jp/hrd/ci/keiyaku_koubo/27-iev_g_0004.html

○火山影響評価に係る技術的知見の整備において、マグマの物理化学条件の推定に関する研究を行う。

https://unit.aist.go.jp/hrd/ci/keiyaku_koubo/27-iev_g_0005.html

2. 地質情報研究部門

○研究内容：研究部門のミッションのいずれかに適合し、これを発展させられるような地球科学に関する研究を行う。

https://unit.aist.go.jp/hrd/ci/keiyaku_koubo/27-igg_0001.html

○その他 地質分野での公募 https://unit.aist.go.jp/hrd/ci/keiyaku_koubo/list_geo_1_tkb.html#igg

（上記のお知らせは火山学会メーリングリストに1月21日送信しました）

【神戸大学自然科学系先端融合研究環重点研究部】

職 種：助教

勤務形態：常勤（任期あり）、任期：5年（再任なし）

募集人員：1名

着任時期：平成27年8月1日以降できるだけ早い時期

応募期間：平成27年2月13日～平成27年4月30日（木）

仕事内容：重点研究チーム「水の起源と惑星進化における役割の解析」に所属し惑星進化に関する研究教育に従事する。

研究分野：火山学（特に巨大噴火に関する研究）

惑星物質科学（特に地球型惑星の地殻進化に関する研究）

惑星物理学（特に太陽系小天体進化に関する理論的研究）

詳細は下記をご覧ください。

<http://www.planet.sci.kobe-u.ac.jp/>

http://www.planet.sci.kobe-u.ac.jp/kobo_201502.pdf

（上記のお知らせは火山学会メーリングリストに2月13

日送信しました)

○その他公募

【東京大学地震研究所・京都大学防災研究所】

平成 27 年度拠点間連携共同研究の公募について

1. 公募事項 (公募要領を参照)
 - (1) 拠点間連携共同研究
2. 申請資格: 国立大学法人, 公, 私立大学及び国, 公立研究機関の教員・研究者又はこれに準じる者.
3. 申請方法: 所定の様式に必要事項を記載のうえ, 拠点間連携共同研究申請用 HP (<https://www.pasreg.jp/reg/top/dprieri/author>) より, Web 申請してください. 様式は以下の HP に掲載されています. 東京大学地震研究所の共同利用の HP <http://www.eri.u-tokyo.ac.jp/sharing/> 京都大学防災研究所の共同研究の HP http://www.dpri.kyoto-u.ac.jp/web_j/index_topics.html
4. 研究期間: 研究期間は, 平成 27 年 4 月から平成 28 年 3 月までとする.
5. 審査と採否: 東京大学地震研究所 (以下, 地震研) と京都大学防災研究所 (以下, 防災研) が共同で設置する拠点間連携共同研究委員会において一次審査がなされ, 最終的には地震研の共同利用委員会と防災研の共同利用・共同研究拠点委員会が採否を決定します. 採否の決定は, 平成 27 年 3 月末までに行われ, 結果を研究代表者に通知します. 研究計画の内容が共同研究の公募の趣旨に沿っていることが重要です.
6. 申請期限: 平成 27 年 2 月 6 日 (金) 【厳守】
7. 承諾書の提出: 上記締切後 2 週間以内に所属機関長等の承諾書 (様式 拠点 3) を以下の宛先へ郵送願います. 課題募集型研究へ申請される場合は, 研究代表者だけでなく分担研究組織に記載の方全員分の承諾書の提出が必要です. 地震研及び防災研に所属されている方は提出不要です. (異動等があった場合は, 新しい所属機関長の承諾書を速やかに再提出してください.)
〒113-0032 東京都文京区弥生 1-1-1 東京大学地震研究所研究支援チーム (共同利用担当)
8. 所要経費: 研究に必要な経費 (備品は除く) 及び旅費は, 予算の範囲内において防災研において経理処理します.
9. 報告書: 本共同研究の研究代表者は, 研究期間終了後 30 日以内に共同研究実施報告書 (様式拠点 4) を Web システムにて提出して下さい.
10. 謝辞等の記載: この拠点間連携研究の共同研究で行われた研究に関する論文を発表する場合は, 謝辞に

地震研と防災研の拠点間連携共同研究による旨の文章を入れてください.

11. 宿泊施設: 地震研および防災研には宿泊施設がありませんので, 各自用意してください.
12. 注意事項:
 - (1) 施設等の利用にあたっては, 地震研および防災研の規程, その他関係法令を遵守するとともに, 管理・安全のために発する両所長の指示に従っていただきます.
 - (2) 予算の執行, 研究の実施, 設備の利用については, 両研究所の担当教員と十分に連絡を取り, かつ, 関係する教員の指示に従ってください.
 - (3) 東京大学および京都大学以外の共同利用者が研究を遂行する際に受けた損失, 損害に関しては, 原則として各所属機関で対応するものとし, 東京大学および京都大学は一切の責任を負いません. また学生が共同研究に参画される場合は, (財)日本国際教育支援協会の損害保険「学生教育研究災害傷害保険 (学研災)」等に加入してください. (証明書等の提出は不要)
 - (4) 本共同研究によって知的財産を創出した場合は, 出願等を行う前に両研究所の担当教員及び研究分担者にご連絡ください. 併せて, 所属機関の知財担当部署への連絡もお願いいたします. 権利の持ち分, 出願手続き等については協議の上, 決定いたします.
 - (5) この他, 公募に関するお問い合わせは地震研・研究支援チーム (共同利用担当) もしくは, 防災研・研究協力課共同利用担当へお願いします.

【問い合わせ先】

〒113-0032 東京都文京区弥生 1-1-1

東京大学地震研究所研究支援チーム (共同利用担当)

電話: 03-5841-5710, 03-5841-1769

FAX: 03-5689-4467

E-mail: k-kyodoriyo@eri.u-tokyo.ac.jp

〒611-0011 京都府宇治市五ヶ庄

京都大学宇治地区事務部研究協力課共同利用担当

電話: 0774-38-3350

FAX: 0774-38-3369

E-mail: kyodo@dpri.kyoto-u.ac.jp

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに 1 月 5 日送信しました)

【2015 年度地球化学研究協会学術賞「三宅賞」および「進歩賞」候補者の募集】

1. 三宅賞

対 象：地球化学に顕著な業績を挙げた研究者
表彰内容：賞状、副賞として賞牌および賞金 30 万円、
毎年 1 名

2. 進歩賞

対 象：1975 年 4 月 2 日以降に生まれた方で、地
球化学の進歩に優れた業績を挙げ、将来
の発展が期待される研究者

表彰内容：賞状および賞金 10 万円、毎年 1～2 名

3. 応募方法：地球化学研究協会のホームページからダ
ウンロードした申請書に、略歴・推薦理由・研究業績
などを記入し、主な論文 三宅賞：10 編程度、進歩
賞：2 編程度を添えて、下記のあて先へ送付して下さ
い。応募書類等は三宅賞及び進歩賞選考のためにの
み用いられます。

4. 締切日：2015 年 8 月 31 日（必着）

地球化学研究協会ホームページ：<http://www-cc.gakushuin.ac.jp/~e881147/Geochem/index.html>

応募書類送付先：〒100-8212 東京都千代田区丸の内
1-4-5

三菱 UFJ 信託銀行リテール受託業務部公益信託グ
ループ

（公益信託）地球化学研究基金 伊藤幸雄

問合せ：電子メールで下記アドレスへお願いします。

E-mail：eitaro1939@yahoo.co.jp または hirose45037@mail2.accsnet.ne.jp

（上記のお知らせは火山学会メーリングリストに 2 月 10
日送信しました）

【国土地理協会】

平成 27 年度学術研究助成についてのお知らせ

1. 助成対象となる調査・研究

- (1) 地理学および関連する分野の学術的調査・研究
- (2) 地図・地名に関する学術的調査・研究
- (3) 上記 (1)・(2) に関連した東日本大震災からの復
興に関連する調査・研究。または自然環境の維
持・保全・向上を通じての農林水産業への寄与に
関する調査・研究

2. 申請の受付：平成 27 年 4 月 1 日～4 月 17 日必着

詳細については、国土地理協会ホームページ「学術
研究助成のお知らせ」（<http://www.kokudo.or.jp/grant/index.html>）をご覧ください。

（上記のお知らせは火山学会メーリングリストに 2 月 13
日送信しました）

【第 12 回（平成 27 年度）日本学術振興会賞受賞候補者の
推薦について】

1. 対象分野

人文学、社会科学及び自然科学にわたる全分野

2. 対象者

国内外の学術誌等に公表された論文、著書、その他の
研究業績により学術上とくに優れた成果を上げたと
認められる者のうち、平成 27 年 4 月 1 日現在以下の
条件を満たす者としします。

- 1) 45 歳未満であること
- 2) 博士の学位を取得していること（博士の学位を
取得した者と同等以上の学術研究能力を有する
者を含みます。）
- 3) 外国人の場合は推薦時点において我が国で 5 年
以上研究者として大学等研究機関に所属してお
り、今後も継続して我が国で研究活動を予定し
ていること

3. 締切日：2015 年 4 月 13 日（月）～15 日（水）

火山学会推薦締切：2015 年 3 月 31 日（火）

4. 応募方法 応募の詳細は日本学術振興会のホーム
ページ

<http://www.jsps.go.jp/jsps-prize/>

を参照してください。

応募には所属学会の推薦及び個人推薦があります。

火山学会による推薦を希望する方は、日本学術振
興会のホームページから推薦書用紙をダウンロード
し、必要事項を記入の上、火山学会事務局宛にお送り
ください。

書類送付先

特定非営利活動法人 日本火山学会

〒113-0033 東京都文京区本郷 6-2-9 モンテベル
デ第 2 東大前 406 号

（上記のお知らせは火山学会メーリングリストに 2 月 13
日送信しました）

○シンポジウム等の開催案内

【「JpGU 若手研究者のためのミニ就活シンポ」開催案内】

主催：JpGU キャリア支援委員会、男女共同参画委員会
日時・場所：

12/3（水）17：45～19：00 国立極地研究所 大会議室

12/4（木）12：10～12：55 国立極地研究所 3 階セミ
ナー室

極地研究所へのアクセス：

JR 立川駅から徒歩 20 分

多摩モノレール高松駅から徒歩 10 分

など詳細は以下のページをご覧ください。

<http://www.nipr.ac.jp/outline/summary/access.html>

プログラム：

12/3 (水)

17:45~18:15 「シンポ概要説明」 JpGU キャリア支援委員会

18:25~19:00 「JpGU キャリアパスアンケートとキャリア相談ブースから探る若手研究者キャリアパスの現状」

坂野井和代

(JpGU キャリア支援委員会副委員長, 駒澤大学)

12/4 (木)

12:10~12:55 「博士のキャリア構築, 就職活動を考える~産業界の視点を踏まえて~」
長井裕樹氏 (株式会社アカリク 執行役員)~~~~~
日本地球惑星科学連合 キャリア支援委員会
委員 浜田盛久

問い合わせ先 mhamada@jamastec.go.jp

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに12月1日送信しました)

【高校生のための先進的の科学技術体験合宿プログラム「スプリング・サイエンスキャンプ2015」参加者募集】

サイエンスキャンプは, 先進的な研究テーマに取り組んでいる日本各地の大学, 民間企業等を会場として, 第一線で活躍する研究者・技術者から本格的な講義・実験・実習を受けることができる, 高校生のための科学技術体験合宿プログラムです。

開催日: 2015年3月23日~3月29日の期間中の2泊3日
対象: 高等学校, 中等教育学校後期課程 (4~6学年)

または高等専門学校 (1~3学年)

会場: 大学, 民間企業等 12機関

定員: 会場ごとに8~20名 (計168名)

参加費: 2000円 (食費の一部に充当, 自宅と会場間の往復交通費は自己負担)

応募受付期間: 2014年12月8日 (月) 10:00~2015年1月20日 (火) 17:00迄

主催: 独立行政法人 科学技術振興機構, 会場となる実施機関 (12機関)

応募方法: Webにて募集要項を確認し, 応募登録サイトから申し込んでください。

<http://www.jst.go.jp/cpse/sciencecamp/camp/>

応募・問合せ先: サイエンスキャンプ本部事務局

(公財)日本科学技術振興財団 人財育成部内

TEL: 03-3212-2454 FAX: 03-3212-0014

E-mail: camp-boshu26@jsf.or.jp

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに12月8日送信しました)

【柳川喜郎氏 特別セミナーのお知らせ】

最近復刻されました「桜島噴火記」の著者で, 元NHK解説委員の柳川喜郎氏をお招きし, 下記の特別セミナーを開催します。講演では, 1914年桜島大正噴火, 1991年雲仙普賢岳火砕流災害, 2014年御嶽山噴火を例に, マスコミの立場から地震や火山研究の在り方についてお話し頂き, その後, 参加者を交えて議論をしたいと思います。

参加は自由です。皆様の参加をお待ちします。

特別セミナー 1914年桜島噴火災害に学ぶ

~地震学・火山学が減災に貢献できること~

講師 柳川喜郎氏 (元NHK解説委員)

日時: 平成27年1月30日 (金) 13時30分~15時30分

場所: 東京大学地震研究所 第1会議室 (地震研究所2号館5階)

主催: 東京大学地震研究所 地震・火山噴火予知研究協議会

詳しくは, 下記をご覧ください。

<http://www.eri.u-tokyo.ac.jp/wp-content/uploads/2014/12/1914sakurajimafunkanimanabu.pdf>

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに1月16日送信しました)

【J-DESC コアスクール岩石コア記載技術コースのお知らせ】

目的

J-DESCが主催する本コースは, 産業技術総合研究所地質調査総合センターのコアライブラリーに保管されている各種岩石コアを使いその記載手法を実践的に解説する実習型スクールです。今回は, 火山岩コアの岩相記載法や岩相解析による山体形成・噴火機構の解析法などをレクチャーします。

実施日程

2015年3月30日 (月)~4月1日 (水)

講師

山元孝広 産業技術総合研究所活断層・火山研究部門

伊藤順一 産業技術総合研究所活断層・火山研究部門

ほか

実施場所

産業技術総合研究所第7事業所

申込〆切

2015年2月27日 (金) 17:00

詳細と申込は下記のページをご覧ください

<http://www.j-desc.org/modules/tinyd3/rewrite/coreschool/ganseki.html>

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに1月19日送信しました)

【平成 26 年度 気象研究所 研究成果発表会のお知らせ】

注意報・警報等の防災情報を発信している気象庁の技術的な基盤を支える気象研究所における、火山や気象などの最新の研究を紹介します。

参加無料・事前申込制（先着順）です。皆様のご参加をお待ちします。

平成 26 年度 気象研究所 研究成果発表会

～自然災害の軽減に向けた研究の最前線～

日時：平成 27 年 3 月 5 日（木）13：30～16：30

場所：東京都千代田区 一橋大学 一橋講堂（学術総合センター内）

主催：気象庁気象研究所

Web にて詳細をご確認の上、参加登録ページからお申し込みください。

<http://www.mri-jma.go.jp/Topics/H26/Happyoukai2014/Happyoukai2014.html>

（上記のお知らせは火山学会メーリングリストに 1 月 26 日送信しました）

【JST-ISSC-NRF 共催国際シンポジウム “Transformations to Sustainability”】

日時：2015 年 1 月 29 日（木）13：00～17：00

会場：国連大学 ウ・タント国際会議場

主催：科学技術振興機構（JST）、国際社会科学評議会（ISSC）、南アフリカ国立研究財団（NRF）

本シンポジウムでは、フューチャー・アース構想の立ち上げに深く関わったゲストを招き、フューチャー・アースの実現に向けて、自然科学と人文・社会科学との協働、科学と社会のあり方等について議論を深めたいと思います。

また、ISSC、JST、NRF が行う国際研究開発プログラム “Transformations to Sustainability”（T2S）の概要と、これから行われる研究公募について紹介いたします。

フューチャー・アースおよびサステナビリティ・サイエンスに関わる皆様のご参加を、心よりお待ちしております。

〈プログラム詳細〉

添付のチラシをご覧ください。

WEB サイトはこちら

→ <http://www.ristex.jp/eventinfo/FE/index.html>

〈お申し込み〉

t2s_support@b-ocean.co.jp まで、Eメールにてお申し込みください。

お手数ですが、メール件名を「シンポジウム参加申込」として下記必要事項をご記入ください。

【お名前 / アルファベット】

【ご所属】

【部署】（任意）

【電話番号】（任意）

【メールアドレス】

【カテゴリ】

教員・研究者 / 会社員 / 公務員・団体職員 / 国際機関 / NGO・NPO / メディア / 学生 / その他・個人

（該当するものをお残してください）

〈お問い合わせ先〉

.....

JST フューチャー・アース構想の推進事業 事務局

E-mail：fe-ws@ristex.jst.go.jp

独立行政法人 科学技術振興機構（JST）

社会技術研究開発センター（RISTEX）内（担当：濱田）

〒102-8666 東京都千代田区四番町 5-3 サイエンスプラザ 4 階

TEL：03-5214-0132

（上記のお知らせは火山学会メーリングリストに 1 月 26 日送信しました）

○ IUGG 関係

【IUGG 2015 要旨メ切（1/30）】

IAVCEI など 8 つのアソシエーションが参加する IUGG 総会が今年 6 月 22 日から 7 月 2 日にかけて、チェコ共和国プラハ市のプラハ会議センターで開催されます。この会議ではそれぞれのアソシエーションの総会も開催されます*。IAVCEI 関連のシンポジウムは後半（6/26～7/1）です。

* IUGG と各アソシエーションの総会は 4 年に一度開催。その間に各アソシエーションの学術総会（ex. IAVCEI 鹿児島大会）が開催されます。

今回の総会時に開催されるシンポジウムの講演要旨のメ切が 1 月 30 日となっています。

以下のホームページからセッション、登録、投稿、巡検の情報などを得て投稿下さい。

奮って申込下さい。

<http://www.iugg2015prague.com/>

また登録の際にはかならず関係アソシエーションを “IAVCEI” としてください。

追伸：IUGG 総会に関連し、IAVCEI 会員には、IAVCEI の将来を左右する重要な投票のお願いが 12 月 18 日頃に届いていると思います。1 月 15 日がメ切です。

日本学術会議地球惑星科学委員会 IUGG 分科会委員長、

IAVCEI 小委員会委員長 中田節也

（上記のお知らせは火山学会メーリングリストに 1 月 5 日送信しました）

○ EPS 関係

【Contents Service : Earth, Planets and Space, Vol. 66, October & November, 2014】

火山学会会員のみなさま

EPS に最近掲載された論文リストをお送りします。
他学会担当

=====

Earth, Planets and Space (EPS)

Contents : Vol. 66, 2014,

Published : October & November

Manuscript No. 124-126,129,131-142,144-154, 157

IMPACT FACTOR 3.06

<http://www.earth-planets-space.com/content>

=====

Frontier letter [image : Open Access]

<http://www.springeropen.com/about/access>

<http://www.earth-planets-space.com/content/66/1/157>)

*Testing a toroidal magnetic field imaging method at the core-mantle boundary using a numerical dynamo model

<http://www.earth-planets-space.com/content/66/1/157>)*

Futoshi Takahashi

Earth, Planets and Space 2014, *66* : 157 (26 November 2014)

Abstract <http://www.earth-planets-space.com/content/66/1/157/abstract> | Full text <http://www.earth-planets-space.com/content/66/1/157> | PDF <http://www.earth-planets-space.com/content/pdf/s40623-014-0157-z.pdf>

Letter [image : Open Access] <http://www.springeropen.com/about/access>

<http://www.earth-planets-space.com/content/66/1/154>)

*Reaction of electric and meteorological states of the near-ground atmosphere during a geomagnetic storm on 5 April 2010

<http://www.earth-planets-space.com/content/66/1/154>)*

Sergey Smirnov

Earth, Planets and Space 2014, *66* : 154 (26 November 2014)

Abstract <http://www.earth-planets-space.com/content/66/1/154/abstract> | Full text <http://www.earth-planets-space.com/content/66/1/154> | PDF <http://www.earth-planets-space.com/content/pdf/s40623-014-0154-2.pdf>

Letter [image : Open Access] <http://www.springeropen.com/about/access>

<http://www.earth-planets-space.com/content/66/1/148>)

*Methods of analysis of geomagnetic field variations and cosmic ray data

<http://www.earth-planets-space.com/content/66/1/148>)*

*Oksana V Mandrikova, Igor S Solovev, Timur L Zalyaev

Earth, Planets and Space 2014, *66* : 148 (21 November 2014)

Abstract <http://www.earth-planets-space.com/content/66/1/148/abstract> | Full text <http://www.earth-planets-space.com/content/66/1/148> | PDF <http://www.earth-planets-space.com/content/pdf/s40623-014-0148-0.pdf>

Letter [image : Open Access] <http://www.springeropen.com/about/access>

<http://www.earth-planets-space.com/content/66/1/153>)

*Friction properties of the plate boundary megathrust beneath the frontal wedge near the Japan Trench : an inference from topographic variation

<http://www.earth-planets-space.com/content/66/1/148>)*

Oksana V Mandrikova, Igor S Solovev, Timur L Zalyaev

Earth, Planets and Space 2014, *66* : 148 (21 November 2014)

Abstract <http://www.earth-planets-space.com/content/66/1/148/abstract> | Full text <http://www.earth-planets-space.com/content/66/1/148> | PDF <http://www.earth-planets-space.com/content/pdf/s40623-014-0148-0.pdf>

Letter [image : Open Access] <http://www.springeropen.com/about/access>

<http://www.earth-planets-space.com/content/66/1/153>)

*Friction properties of the plate boundary megathrust beneath the frontal wedge near the Japan Trench : an inference from topographic variation

<http://www.earth-planets-space.com/content/66/1/153>)*

Hiroaki Koge, Toshiya Fujiwara, Shuichi Kodaira, Tomoyuki Sasaki, Jun Kameda, Yujin Kitamura, Mari Hamahashi, Rina Fukuchi, Asuka Yamaguchi, Yohei Hamada, Juichiro Ashi, Gaku Kimura

Earth, Planets and Space 2014, *66* : 153 (19 November 2014)

Abstract <http://www.earth-planets-space.com/content/66/1/153/abstract> | Full text <http://www.earth-planets-space.com/content/66/1/153> | PDF <http://www.earth-planets-space.com/content/pdf/s40623-014-0153-3.pdf>

Letter [image : Open Access] <http://www.springeropen.com/about/access>

<http://www.earth-planets-space.com/content/66/1/152>)

*Teleseismic inversion of the 2004 Sumatra-Andaman earthquake rupture process using complete Green's functions

<http://www.earth-planets-space.com/content/66/1/152>)*

Masahiro Yoshimoto, Yoshiko Yamanaka

Earth, Planets and Space 2014, *66* : 152 (18 November 2014)

Abstract <http://www.earth-planets-space.com/content/66/1/152/abstract> | Full text <http://www.earth-planets-space.com/content/66/1/152> | PDF <http://www.earth-planets-space.com/content/pdf/s40623-014-0152-4.pdf> | ePUB <http://www.earth-planets-space.com/content/epub/s40623-014-0152-4.epub>

Letter [image : Open Access] <http://www.springeropen.com/about/access>

<http://www.earth-planets-space.com/content/66/1/151>)

*The spatial density gradient of galactic cosmic rays and its solar cycle variation observed with the Global Muon Detector Network

<http://www.earth-planets-space.com/content/66/1/151>)*

The spatial density gradient of galactic cosmic rays and its solar cycle variation observed with the Global Muon Detector Network

<http://www.earth-planets-space.com/content/66/1/151>)*

Letter [image : Open Access] <http://www.springeropen.com/about/access>

<http://www.earth-planets-space.com/content/66/1/151>)

*The spatial density gradient of galactic cosmic rays and its solar cycle variation observed with the Global Muon Detector Network

<http://www.earth-planets-space.com/content/66/1/151>)*

<http://www.earth-planets-space.com/content/66/1/151>*
Masayoshi Kozai, Kazuoki Munakata, Chihiro Kato, Takao Kuwabara, John W Bieber, Paul Evenson, Marlos Rockenbach, Alisson Lago, Nelson J Schuch, Munetoshi Tokumaru, Marcus L Duldig, John E Humble, Ismail Sabbah, Hala K Al Jassar, Madan M Sharma, Jozsef Kó ; ta

Earth, Planets and Space 2014, *66* : 151 (14 November 2014)

Abstract <http://www.earth-planets-space.com/content/66/1/151/abstract> | Full text <http://www.earth-planets-space.com/content/66/1/151> | PDF <http://www.earth-planets-space.com/content/pdf/s40623-014-0151-5.pdf> | ePUB <http://www.earth-planets-space.com/content/epub/s40623-014-0151-5.epub>

Letter [image : Open Access] <http://www.springeropen.com/about/access>

<http://www.earth-planets-space.com/content/66/1/150>

Lidar returns from the upper atmosphere of Kamchatka for 2008 to 2014 observations <http://www.earth-planets-space.com/content/66/1/150>

Vasily V Bychkov, Yuri A Nepomnyashchiy, Andrey S Perezhugin, Boris M Shevtsov

Earth, Planets and Space 2014, *66* : 150 (14 November 2014)

Abstract <http://www.earth-planets-space.com/content/66/1/150/abstract> | Full text <http://www.earth-planets-space.com/content/66/1/150> | PDF <http://www.earth-planets-space.com/content/pdf/s40623-014-0150-6.pdf> | ePUB <http://www.earth-planets-space.com/content/epub/s40623-014-0150-6.epub>

Frontier letter [image : Open Access]

<http://www.springeropen.com/about/access>

<http://www.earth-planets-space.com/content/66/1/149>

*Coronal magnetic field and the plasma beta determined from radio and multiple satellite observations

<http://www.earth-planets-space.com/content/66/1/149>*

Kazumasa Iwai, Kiyoto Shibasaki, Satoshi Nozawa, Takuya Takahashi, Shinpei Sawada, Jun Kitagawa, Shun Miyawaki, Hirotaka Kashiwagi

Earth, Planets and Space 2014, *66* : 149 (14 November 2014)

Abstract <http://www.earth-planets-space.com/content/66/1/149/abstract> | Full text <http://www.earth-planets-space.com/content/66/1/149> | PDF <http://www.earth-planets-space.com/content/pdf/s40623-014-0149-z.pdf> | ePUB

<http://www.earth-planets-space.com/content/epub/s40623-014-0149-z.epub>

Full paper [image : Open Access] <http://www.springeropen.com/about/access>

<http://www.earth-planets-space.com/content/66/1/145>

*Investigation of the intraseasonal oscillations over a Brazilian equatorial station : a case study

<http://www.earth-planets-space.com/content/66/1/145>*

Amitava Guharay, Paulo Batista, Barclay Clemesha, Sumanta Sarkhel, Ricardo Buriti

Earth, Planets and Space 2014, *66* : 145 (11 November 2014)

Abstract <http://www.earth-planets-space.com/content/66/1/145/abstract> | Full text <http://www.earth-planets-space.com/content/66/1/145> | PDF <http://www.earth-planets-space.com/content/pdf/s40623-014-0145-3.pdf>

Frontier letter [image : Open Access]

<http://www.springeropen.com/about/access>

<http://www.earth-planets-space.com/content/66/1/134>

Correlation between the global occurrences of ionospheric irregularities and deep atmospheric convective clouds in the intertropical convergence zone (ITCZ) <http://www.earth-planets-space.com/content/66/1/134>

Shin-Yi Su, Chung Wu, Chao Liu

Earth, Planets and Space 2014, *66* : 134 (6 November 2014)

Abstract <http://www.earth-planets-space.com/content/66/1/134/abstract> | Full text <http://www.earth-planets-space.com/content/66/1/134> | PDF <http://www.earth-planets-space.com/content/pdf/1880-5981-66-134.pdf>

Full paper [image : Open Access] <http://www.springeropen.com/about/access>

<http://www.earth-planets-space.com/content/66/1/136>

*New perspectives on thermosphere tides : 1. Lower thermosphere spectra and seasonal-latitudinal structures

<http://www.earth-planets-space.com/content/66/1/136>*

Alexander O Truskowski, Jeffrey M Forbes, Xiaoli Zhang, Scott E Palo

Earth, Planets and Space 2014, *66* : 136 (30 October 2014)

Abstract <http://www.earth-planets-space.com/content/66/1/136/abstract> | Full text <http://www.earth-planets-space.com/content/66/1/136> | PDF <http://www.earth-planets-space.com/content/pdf/s40623-014-0136-4.pdf>

Letter [image : Open Access] <http://www.springeropen.com/about/access>

<http://www.earth-planets-space.com/content/66/1/147>)
 *Study of plasma flow reversal in the near-Earth plasma sheet using numerical computations
<http://www.earth-planets-space.com/content/66/1/147>)*
 Koji Kondoh, Tohru Shimizu
 Earth, Planets and Space 2014, *66* : 147 (29 October 2014)
 Abstract <http://www.earth-planets-space.com/content/66/1/147/abstract>) | Full text <http://www.earth-planets-space.com/content/66/1/147>) | PDF <http://www.earth-planets-space.com/content/pdf/s40623-014-0147-1.pdf>)
 Letter [image : Open Access] <http://www.springeropen.com/about/access>)
 <http://www.earth-planets-space.com/content/66/1/146>)
 *Relationship between the equatorial electrojet and global Sq currents at the dip equator region
<http://www.earth-planets-space.com/content/66/1/146>)*
 Nurul Hamid, Huixin Liu, Teiji Uozumi, Kiyohumi Yumoto, Bhaskara Veenadhari, Akimasa Yoshikawa, Jairo Sanchez
 Earth, Planets and Space 2014, *66* : 146 (29 October 2014)
 Abstract <http://www.earth-planets-space.com/content/66/1/146/abstract>) | Full text <http://www.earth-planets-space.com/content/66/1/146>) | PDF <http://www.earth-planets-space.com/content/pdf/s40623-014-0146-2.pdf>)
 Full paper [image : Open Access] <http://www.springeropen.com/about/access>)
 <http://www.earth-planets-space.com/content/66/1/144>)
 *Stress reversal recorded in calcite vein cuttings from the Nankai accretionary prism, southwest Japan
<http://www.earth-planets-space.com/content/66/1/144>)*
 Toru Takeshita, Asuka Yamaguchi, Norio Shigematsu
 Earth, Planets and Space 2014, *66* : 144 (29 October 2014)
 Abstract <http://www.earth-planets-space.com/content/66/1/144/abstract>) | Full text <http://www.earth-planets-space.com/content/66/1/144>) | PDF <http://www.earth-planets-space.com/content/pdf/s40623-014-0144-4.pdf>)
 Full paper [image : Open Access] <http://www.springeropen.com/about/access>)
 <http://www.earth-planets-space.com/content/66/1/135>)
 *Outer-rise normal fault development and influence on near-trench décollement propagation along the Japan Trench, off Tohoku
<http://www.earth-planets-space.com/content/66/1/135>)*

Brian Boston, Gregory F Moore, Yasuyuki Nakamura, Shuichi Kodaira
 Earth, Planets and Space 2014, *66* : 135 (28 October 2014)
 Abstract <http://www.earth-planets-space.com/content/66/1/135/abstract>) | Full text <http://www.earth-planets-space.com/content/66/1/135>) | PDF <http://www.earth-planets-space.com/content/pdf/1880-5981-66-135.pdf>)
 Full paper [image : Open Access] <http://www.springeropen.com/about/access>)
 <http://www.earth-planets-space.com/content/66/1/137>)
 *Origin and transport of pore fluids in the Nankai accretionary prism inferred from chemical and isotopic compositions of pore water at cold seep sites off Kumano
<http://www.earth-planets-space.com/content/66/1/137>)*
 Tomohiro Toki, Ryosaku Higa, Akira Ijiri, Urumu Tsunogai, Juichiro Ashi
 Earth, Planets and Space 2014, *66* : 137 (24 October 2014)
 Abstract <http://www.earth-planets-space.com/content/66/1/137/abstract>) | Full text <http://www.earth-planets-space.com/content/66/1/137>) | PDF <http://www.earth-planets-space.com/content/pdf/s40623-014-0137-3.pdf>)
 Full paper [image : Open Access] <http://www.springeropen.com/about/access>)
 <http://www.earth-planets-space.com/content/66/1/140>)
 *Study of Pc1 pearl structures observed at multi-point ground stations in Russia, Japan, and Canada
<http://www.earth-planets-space.com/content/66/1/140>)*
 Chae-Woo Jun, Kazuo Shiokawa, Martin Connors, Ian Schofield, Igor Poddelsky, Boris Shevtsov
 Earth, Planets and Space 2014, *66* : 140 (23 October 2014)
 Abstract <http://www.earth-planets-space.com/content/66/1/140/abstract>) | Full text <http://www.earth-planets-space.com/content/66/1/140>) | PDF <http://www.earth-planets-space.com/content/pdf/s40623-014-0140-8.pdf>)
 Full paper [image : Open Access] <http://www.springeropen.com/about/access>)
 <http://www.earth-planets-space.com/content/66/1/131>)
 *Groundwater, possibly originated from subducted sediments, in Joban and Hamadori areas, southern Tohoku, Japan
<http://www.earth-planets-space.com/content/66/1/131>)*
 Yoko S Togo, Kohei Kazahaya, Yuki Tosaki, Noritoshi Morikawa, Hiroyuki Matsuzaki, Masaaki Takahashi, Tsutomu Sato

Earth, Planets and Space 2014, *66* : 131 (20 October 2014)

Abstract [〈http://www.earth-planets-space.com/content/66/1/131/abstract〉](http://www.earth-planets-space.com/content/66/1/131/abstract) | Full text [〈http://www.earth-planets-space.com/content/66/1/131〉](http://www.earth-planets-space.com/content/66/1/131) | PDF [〈http://www.earth-planets-space.com/content/pdf/1880-5981-66-131.pdf〉](http://www.earth-planets-space.com/content/pdf/1880-5981-66-131.pdf)

Full paper [image : Open Access] [〈http://www.springeropen.com/about/access〉](http://www.springeropen.com/about/access)

[〈http://www.earth-planets-space.com/content/66/1/142〉](http://www.earth-planets-space.com/content/66/1/142)

Along-strike variations in temperature and tectonic tremor activity along the Hikurangi subduction zone, New Zealand [〈http://www.earth-planets-space.com/content/66/1/142〉](http://www.earth-planets-space.com/content/66/1/142)

Suguru Yabe, Satoshi Ide, Shoichi Yoshioka

Earth, Planets and Space 2014, *66* : 142 (18 October 2014)

Abstract [〈http://www.earth-planets-space.com/content/66/1/142/abstract〉](http://www.earth-planets-space.com/content/66/1/142/abstract) | Full text [〈http://www.earth-planets-space.com/content/66/1/142〉](http://www.earth-planets-space.com/content/66/1/142) | PDF [〈http://www.earth-planets-space.com/content/pdf/s40623-014-0142-6.pdf〉](http://www.earth-planets-space.com/content/pdf/s40623-014-0142-6.pdf)

Full paper [image : Open Access] [〈http://www.springeropen.com/about/access〉](http://www.springeropen.com/about/access)

[〈http://www.earth-planets-space.com/content/66/1/125〉](http://www.earth-planets-space.com/content/66/1/125)

*A long-term trend in the F2-layer critical frequency as observed at Alma-Ata ionosonde station

[〈http://www.earth-planets-space.com/content/66/1/125〉](http://www.earth-planets-space.com/content/66/1/125)*
Galina I Gordiyenko, Victor V Vodyannikov, Artur F Yakovets, Yuriy G Litvinov

Earth, Planets and Space 2014, *66* : 125 (17 October 2014)

Abstract [〈http://www.earth-planets-space.com/content/66/1/125/abstract〉](http://www.earth-planets-space.com/content/66/1/125/abstract) | Full text [〈http://www.earth-planets-space.com/content/66/1/125〉](http://www.earth-planets-space.com/content/66/1/125) | PDF [〈http://www.earth-planets-space.com/content/pdf/1880-5981-66-125.pdf〉](http://www.earth-planets-space.com/content/pdf/1880-5981-66-125.pdf)

Letter [image : Open Access] [〈http://www.springeropen.com/about/access〉](http://www.springeropen.com/about/access)

[〈http://www.earth-planets-space.com/content/66/1/141〉](http://www.earth-planets-space.com/content/66/1/141)

*Geological evidence for shallow ductile-brittle transition zones along subduction interfaces : example from the Shimanto Belt, SW Japan

[〈http://www.earth-planets-space.com/content/66/1/141〉](http://www.earth-planets-space.com/content/66/1/141)*
Yoshitaka Hashimoto, Natsuko Yamano

Earth, Planets and Space 2014, *66* : 141 (16 October 2014)

Abstract [〈http://www.earth-planets-space.com/content/66/1/141/abstract〉](http://www.earth-planets-space.com/content/66/1/141/abstract) | Full text [〈http://www.earth-planets-space.com/content/66/1/141〉](http://www.earth-planets-space.com/content/66/1/141) | PDF [〈http://www.earth-planets-space.com/content/pdf/s40623-014-0141-7.pdf〉](http://www.earth-planets-space.com/content/pdf/s40623-014-0141-7.pdf)

Full paper [image : Open Access] [〈http://www.springeropen.com/about/access〉](http://www.springeropen.com/about/access)

[〈http://www.earth-planets-space.com/content/66/1/129〉](http://www.earth-planets-space.com/content/66/1/129)

*Geotechnical behavior of mudstones from the Shimanto and Boso accretionary complexes, and implications for the Nankai accretionary prism

[〈http://www.earth-planets-space.com/content/66/1/129〉](http://www.earth-planets-space.com/content/66/1/129)*

Kai Schumann, Jan H Behrmann, Michael Stipp, Yuzuru Yamamoto, Yujin Kitamura, Christof Lempp

Earth, Planets and Space 2014, *66* : 129 (16 October 2014)

Abstract [〈http://www.earth-planets-space.com/content/66/1/129/abstract〉](http://www.earth-planets-space.com/content/66/1/129/abstract) | Full text [〈http://www.earth-planets-space.com/content/66/1/129〉](http://www.earth-planets-space.com/content/66/1/129) | PDF [〈http://www.earth-planets-space.com/content/pdf/1880-5981-66-129.pdf〉](http://www.earth-planets-space.com/content/pdf/1880-5981-66-129.pdf)

Frontier letter [image : Open Access]

[〈http://www.springeropen.com/about/access〉](http://www.springeropen.com/about/access)

[〈http://www.earth-planets-space.com/content/66/1/138〉](http://www.earth-planets-space.com/content/66/1/138)

*Dominant role of temperature on deep earthquake mechanics for the Tonga slab near the bottom of the upper mantle

[〈http://www.earth-planets-space.com/content/66/1/138〉](http://www.earth-planets-space.com/content/66/1/138)*

Satoshi Kaneshima, Shoichi Yoshioka

Earth, Planets and Space 2014, *66* : 138 (15 October 2014)

Abstract [〈http://www.earth-planets-space.com/content/66/1/138/abstract〉](http://www.earth-planets-space.com/content/66/1/138/abstract) | Full text [〈http://www.earth-planets-space.com/content/66/1/138〉](http://www.earth-planets-space.com/content/66/1/138) | PDF [〈http://www.earth-planets-space.com/content/pdf/s40623-014-0138-2.pdf〉](http://www.earth-planets-space.com/content/pdf/s40623-014-0138-2.pdf)

Letter [image : Open Access] [〈http://www.springeropen.com/about/access〉](http://www.springeropen.com/about/access)

[〈http://www.earth-planets-space.com/content/66/1/139〉](http://www.earth-planets-space.com/content/66/1/139)

*Correlation between magma chamber deflation and eruption cloud height during the 2011 Shinmoe-dake eruptions

[〈http://www.earth-planets-space.com/content/66/1/139〉](http://www.earth-planets-space.com/content/66/1/139)*

Tomofumi Kozono, Hideki Ueda, Toshiki Shimbori, Keiichi Fukui

Earth, Planets and Space 2014, *66* : 139 (14 October 2014)

Abstract [〈http://www.earth-planets-space.com/content/66/1/139/abstract〉](http://www.earth-planets-space.com/content/66/1/139/abstract) | Full text [〈http://www.earth-planets-space.com/content/66/1/139〉](http://www.earth-planets-space.com/content/66/1/139) | PDF [〈http://www.earth-planets-space.com/content/pdf/s40623-014-0139-1.pdf〉](http://www.earth-planets-space.com/content/pdf/s40623-014-0139-1.pdf)

Technical report [image : Open Access]

<http://www.springeropen.com/about/access>
 <http://www.earth-planets-space.com/content/66/1/133>
 *Progress of the IUGONET system - metadata database for upper atmosphere ground-based observation data
<http://www.earth-planets-space.com/content/66/1/133>*
 Shuji Abe, Norio Umemura, Yukinobu Koyama, Yoshimasa Tanaka, Manabu Yagi, Akiyo Yatagai, Atsuki Shinbori, Satoru UeNo, Yuka Sato, Naoki Kaneda
 Earth, Planets and Space 2014, *66* : 133 (14 October 2014)
 Abstract <http://www.earth-planets-space.com/content/66/1/133/abstract> | Full text <http://www.earth-planets-space.com/content/66/1/133> | PDF <http://www.earth-planets-space.com/content/pdf/1880-5981-66-133.pdf>
 Full paper [image : Open Access] <http://www.springeropen.com/about/access>
 <http://www.earth-planets-space.com/content/66/1/124>
 Mineralogy of four Itokawa particles collected from the first touchdown site <http://www.earth-planets-space.com/content/66/1/124>
 Takaaki Noguchi, John C Bridges, Leon J Hicks, Steven J Gurman, Makoto Kimura, Takahito Hashimoto, Mitsuru Konno, John P Bradley, Ryuji Okazaki, Masayuki Uesugi, Toru Yada, Yuzuru Karouji, Masanao Abe, Tatsuaki Okada, Takuya Mitsunari, Tomoki Nakamura, Hiroyuki Kagi
 Earth, Planets and Space 2014, *66* : 124 (9 October 2014)
 Abstract <http://www.earth-planets-space.com/content/66/1/124/abstract> | Full text <http://www.earth-planets-space.com/content/66/1/124> | PDF <http://www.earth-planets-space.com/content/pdf/1880-5981-66-124.pdf>
 Full paper [image : Open Access] <http://www.springeropen.com/about/access>
 <http://www.earth-planets-space.com/content/66/1/132>
 Effect of lift force on the aerodynamics of dust grains in the protoplanetary disk <http://www.earth-planets-space.com/content/66/1/132>
 Masaki S Yamaguchi, Shigeo S Kimura
 Earth, Planets and Space* 2014, *66* : 132 (3 October 2014)
 Abstract <http://www.earth-planets-space.com/content/66/1/132/abstract> | Full text <http://www.earth-planets-space.com/content/66/1/132> | PDF <http://www.earth-planets-space.com/content/pdf/1880-5981-66-132.pdf>
 Letter [image : Open Access] <http://www.springeropen.com/about/access>

<http://www.earth-planets-space.com/content/66/1/126>
 *Heat flow survey in the vicinity of the branches of the megasplay fault in the Nankai accretionary prism
<http://www.earth-planets-space.com/content/66/1/126>*
 Makoto Yamano, Yoshifumi Kawada, Hideki Hamamoto
 Earth, Planets and Space 2014, *66* : 126 (2 October 2014)
 Abstract <http://www.earth-planets-space.com/content/66/1/126/abstract> | Full text <http://www.earth-planets-space.com/content/66/1/126> | PDF <http://www.earth-planets-space.com/content/pdf/1880-5981-66-126.pdf>
 (上記のお知らせは火山学会メーリングリストに1月6日送信しました)

○連合大会関係

【JpGU 国際セッション「Hard-Rock Drilling」への投稿のお誘い】

下記のように、JpGU 2015 において、ハードロック掘削研究に関する国際セッションを予定しています。

海洋プレート、LIPs、島弧など、様々なテクトニック・セッティングにおける関連した研究・掘削技術など、幅広い分野の投稿をお待ちしております。よろしくお願いたします。

S-IT05 Hard-Rock Drilling : Oceanic Lithosphere to Island Arc Formation and Beyond http://www.jpгу.org/meeting/session_list/detail/SIT05.html

A limited number of IODP expeditions have been conducted for hard-rock drilling for the last decade including most recent expeditions investigating the northern Izu-Bonin-Mariana (IBM) subduction system during 2014 (Expeditions 350, 351 and 352). In this session, we review the current status of our understanding for oceanic lithosphere and island arc formation or anything important beyond and discuss significant issue to be answered by up-coming/future hard-rock drilling. The session invites contributions from interdisciplinary field ranging from geophysics, geochemistry, petrology, engineering and biology working on hard-rock cores/samples from the expeditions or any other research vessels as well as on-land geology such as ophiolites. Preliminary results from the three IBM Expeditions are also welcome.

Invited talk : Ikuo Katayama (Univ. Hiroshima), Yoshinori Sanada (JAMSTEC), Kenji Shimizu (JAMSTEC), Takeshi Hanyu (JAMSTEC), Paul Mueller (Univ. Fulorida), Osamu Ishizuka (GSJ/AIST), Koichiro Obana (JAMSTEC)

Conveners : Yoshihiko Tamura, Yildirim Dilek, Tomoaki Morishita, Takashi Sano, Natsue Abe, Susumu Umino, Eiichi

Takazawa, Shigeaki Ono, Katsuyoshi Michibayashi
 早期投稿 2015年1月8日(木)~2月3日(火) 24:00
 投稿料 ¥3,000/1件(図の掲載 ¥500/1件)
 通常投稿 2014年2月4日(水)~2月18日(水) 12:00
 投稿料 ¥4,000/1件(図の掲載 ¥500/1件)
 (上記のお知らせは火山学会メーリングリストに1月26日送信しました)

【地球惑星連合大会投稿締切のお知らせ】

地球惑星連合大会の投稿締切は2月18日(水) 12:00です。火山学会関連のセッションが予定されておりますので、学会員の方はふるってご投稿いただきますようよろしくお願いたします。

なお、締め切り直前は例年トラブルが発生していますので、できるだけ早めのご投稿をお願いいたします。

セッション閲覧・発表投稿はこちらのサイトからとなります。

http://www.jpгу.оrg/meeting/submission_t.html

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに2月12日送信しました)

【地球惑星連合大会投稿締切のお知らせ(再)】

各位

地球惑星連合大会の投稿締切は2月18日(水) 12:00です。

火山学会関連のセッションが予定されておりますので、学会員の方はふるってご投稿いただきますようよろしくお願いたします。

セッションID: S-VC11

セッションタイトル: Volatiles and volcanoes: the role of volatiles in determining how and when volcanoes erupt
 コンビナー: Iona McIntosh, Atsushi Toramaru, Alexander Nichols

***** セッション URL *****
http://www.jpгу.оrg/meeting/session_list/detail/SVC11.html

***** セッション ID: S-VC12

セッションタイトル: Multidisciplinary volcano monitoring
 コンビナー: Yosuke Aoki, Maurizio Ripepe, Mie Ichihara

***** セッション URL *****
http://www.jpгу.оrg/meeting/session_list/detail/SVC12.html

***** セッション ID: S-VC45

セッションタイトル: 活動的火山

コンビナー: 青木陽介

***** セッション URL *****
http://www.jpгу.оrg/meeting/session_list/detail/SVC45.html

***** セッション ID: S-VC46

セッションタイトル: 火山噴火のダイナミクスと素過程
 コンビナー: 小園誠史, 鈴木雄治郎, 奥村 聡

***** セッション URL *****
http://www.jpгу.оrg/meeting/session_list/detail/SVC46.html

***** セッション ID: S-VS47

セッションタイトル: 火山: 火成活動と長期予測
 コンビナー: 及川輝樹, 長谷川健, 三浦大助, 石塚吉浩, 下司信夫

***** セッション URL *****
http://www.jpгу.оrg/meeting/session_list/detail/SVC47.html

***** セッション ID: S-VC48

セッションタイトル: 火山防災の基礎と応用
 コンビナー: 萬年一剛, 宝田晋治, 藤田英輔, 佐々木寿

***** セッション URL *****
http://www.jpгу.оrg/meeting/session_list/detail/SVC48.html

***** セッション ID: S-VC49

セッションタイトル: 火山熱水系
 コンビナー: 藤光康宏, 鍵山恒臣, 大場 武

***** セッション URL *****
http://www.jpгу.оrg/meeting/session_list/detail/SVC49.html

***** (上記のお知らせは火山学会メーリングリストに2月16日送信しました)

○平成27年度日本火山学会賞および日本火山学会研究奨励賞候補者の公募

特定非営利活動法人日本火山学会
 会長 井口正人

特定非営利活動法人日本火山学会では、平成27年度日本火山学会賞・同研究奨励賞候補者の推薦を以下の要領で公募しますので、ふるって応募下さい。

なお、日本火山学会論文賞については公募をしません。表彰事業の内容

1. 日本火山学会研究奨励賞 (Young Scientist Award) : 火山学に関する優れた論文を発表し, 将来, 火山学の発展への貢献が期待される本会会員で, 平成 27 年 4 月 1 日で 35 歳以下の者。(今回の公募対象)
2. 日本火山学会賞 (Volcanological Society Award) : 学術研究, 学術振興, 防災, 普及啓発など様々な観点において日本の火山学の発展に特段の貢献のあった個人または団体。非会員でも対象になります。(今回の公募対象)
3. 日本火山学会論文賞 (Best Paper Award) : 雑誌「火山」あるいは「Earth, Planets and Space」に掲載された論文中, 火山学に関する独創的で特に優れた論文の著者。平成 27 年度の対象論文は前 3 年 (2012-2014 年) に出版されたものとします。(公募はしません)

推薦方法

- ・自薦・他薦を問いません。
- ・推薦者は非会員であっても構いません。
- ・下記の「推薦に必要な提出資料」を学会事務局までお送り下さい。

選考方法と受賞

- ・各賞選考委員会が上記 3 賞受賞候補者の選考を行い, 理事会において決定します。
- ・本年 5 月に開催される総会 (日本地球惑星科学連合 2015 年大会) において承認された後, 賞状の授与を行います。
- ・日本火山学会賞と同研究奨励賞受賞者には秋季大会で記念講演を行って頂きます。

また, 研究奨励賞受賞者につきましては, 受賞対象となった研究課題に関連する論文 (レビュー論文) の「火山」への投稿をお願いします。

推薦の締め切り

平成 27 年 3 月 16 日 (月) 必着

推薦に必要な提出資料

以下のうち, 1 を電子メールの添付ファイル (MSWord かテキストファイル) として火山学会事務局へ送信下さい。また, 2 がある場合は郵送あるいは pdf ファイル等を電子メールに添付して下さい。電子メールで送る場合は, 必ず subject に「学会賞申請」あるいは「研究奨励賞申請」と明記して下さい。郵送の場合は, 封筒の表に同様に朱書きして下さい。

1. 申請書類 (様式は自由であるが, 必ず以下の項目を含むこと)
 - (1) 推薦対象の賞名 (学会賞か研究奨励賞かのいずれかを記述)
 - (2) 被推薦者氏名, 生年月日, 所属, 連絡先, 電子メー

ルアドレス。団体の場合は, 団体名, 連絡先, 代表者名とその連絡先などを記述のこと。

- (3) 被推薦者の学歴, 職歴, 研究・活動歴。団体の場合は活動歴。
- (4) 推薦者氏名, 所属, 連絡先, 電子メールアドレス, 被推薦者との関係。自薦の場合は, 本人の研究活動 (学会賞においては火山学への貢献) を熟知する照会者の氏名, 所属, 連絡先, 電子メールアドレス (推薦者や照会者は複数であっても構わない)。
- (5) 受賞対象となる研究課題名 (学会賞においては貢献活動名) (40 字以内)
- (6) 推薦理由
 - ・ 1000 字以内で簡潔に推薦の理由, 特に, 被推薦者 (あるいは団体) の研究・貢献活動の火山学における重要性 (もしくは評価されるべき点) をできるだけ具体的に記述のこと。
 - ・ 研究奨励賞においては, 対象となる論文 (複数可) も明記すること。
 - ・ 学会賞においては, 被推薦者 (あるいは団体) の活動に関して, 日本の火山学の発展への貢献度や社会的な位置づけについても簡潔に記述すること。
- (7) 主要な業績あるいは活動のリスト
 - ・ 最近のものから通し番号を付して記述する。
 - ・ 主な業績については, それぞれ, その内容と火山学的位置づけを 250 字以内で解説すること。
- (8) 本人の承諾書
 - ・ 他薦の場合は, 被推薦者本人 (あるいは被推薦団体代表者) が電子メールで事務局に直接送信のこと。自薦の場合は不要。
 - ・ 研究奨励賞においては, 本人の研究活動に関して火山学における位置づけについて自らの見解 (500 字以内) を必ず記述すること。

2. 参考資料

- ・ 選考のために参考となる客観的資料があれば 1 部ずつ添えること。
- ・ 一般雑誌の論文別刷りは不要。
- ・ 提出書類は要求がない限り返却しない。

推薦書提出先

〒113-0033 東京都文京区本郷 6-2-9

モンテバルデ第 2 東大前 406 号 日本火山学会事務局
電話/FAX 03-3813-7421

e-mail : kazan-gakkai@kazan.or.jp

問い合わせ先

各賞選考委員長 宇都浩三 (産業技術総合研究所)

Tel : 029-862-6041, Fax : 029-862-6045

e-mail : k.uto@aist.go.jp

選考委員 (各賞選考委員会)

大湊隆雄, 鹿野和彦, 清水 洋, 藤縄明彦, 森 俊哉,
山里 平

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに1月16日送信しました)

○アジア火山学コアメンバー会議 (2/4@ 京都)

日本火山学会員 各位

国際委員会 藤田です。

アジア火山学コンソーシアム (ACV) コアメンバー会議を下記において開催いたします。

日時 : 2015 (平成 27) 年 2 月 4 日 (水) 9 : 00-17 : 30

場所 : キャンパスプラザ京都 第一会議室 (3F)

※プログラムは学会ホームページよりご覧ください

アジア火山学コンソーシアム (ACV) は, IAVCEI2013 大会を受けて設立したもので, アジアの火山学の発展のため, アジアの火山学の連携を深め, 情報や知見の交換, 若手育成を行うためのコンソーシアムです。

今回は, 今後の具体的な活動を議論するミーティングですが, 会場に若干の余裕があります (20 名程度)。

参加を希望される方は, 防災科研 藤田 (fujita@bosai.go.jp) までご連絡ください。

また, 会議後に懇親会 (会費 5,000 円) を予定しております。

人数に限りがあります。ご希望の方はご連絡ください。

なお, 当所アナウンスしておりましたインドネシアタンボラで予定されていた第 1 回 ACV ですが, 延期の公算が高いです。

詳細が決まり次第, ご連絡差し上げます。

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに1月21日送信しました)

○「火山」59 巻 4 号 目次

「火山」59 巻 4 号・目次をアナウンスいたします。

目次・掲載内容のほか, メーリングリスト限定, 著者からの一言メッセージをご覧ください。

○特集 : 火山噴火史解明のための露頭データベース構築の検討

・巻頭言「火山噴火史解明のための露頭データベース構築の検討」について

著者 : 奥野 充・中田節也・前野 深・小林哲夫

露頭は, 火山噴火史をはじめとした地質学研究に不可

欠であるが, 時間の経過とともにわからなくなる。露頭のような基礎的データの集積は, 今後の研究進展にも寄与すると期待されるが, 従来のデータベース構築では人的・経済的な負担が大き過ぎる。

そこで学術研究とデータベースの構築が同時並行的に進むことが期待される。そのため, この特集では幅広い研究事例を集めて考える材料としたい。また, アウトリーチや防災への活用は, このデータベースの意義をさらに高めるのに不可欠であろう。

・論説「安達太良火山, 12 万年前噴火 (岳噴火) における噴火推移の復元 : 火口近傍露頭と山麓火砕流との対比による推察」

著者 : 藤原健一郎・長谷川健・藤縄明彦

安達太良火山の山頂には, 約 12 万年前に発生した, 「岳噴火」の火口近傍相が連続的に観察できる好露頭が存在します。この論文では, 本露頭の岩相記載を行うとともに, 各層における本質物質 (軽石・スコリア) の共存関係と各本質物質の岩石学的特徴を解明・検討することで, 安達太良火山の噴火史上, 最大級の爆発的噴火の詳細な噴火推移を, 同時期発生とされる 2 つの火砕流発生時期も含めて, 解明します。さらに本噴火様相の時間変遷を, マグマ供給系の変化と関連付けて議論しています。

・論説「最近 5000 年間の九重火山における水蒸気噴火の発生履歴」

著者 : 伊藤順一・星住英夫・川辺禎久

九重火山における水蒸気噴火の発生履歴を明らかにするために, 火口周辺を含む登山道周辺域で地質調査を行い, 多数の 14C 年代測定を実施した。その結果, 最近 5000 年間に 6 層準の水蒸気噴火堆積物の存在を確認した。平均噴火間隔は 500±200 年程度である。一方, 地質調査で確認された最新の水蒸気噴火は 13~14 世紀のものであり, 古記録に残される江戸時代の活動による噴出物は確認できておらず, 1995 年噴火と同程度の極小規模な噴火現象は, 堆積物で確認されたものより頻度が高いと推測される。

・論説「南九州, 池田火山の噴火史」

著者 : 稲倉寛仁・成尾英仁・奥野 充・小林哲夫

火山地質調査にもとづき, 池田カルデラ形成を含む池田火山の噴火史を明らかにした。約 20calkBP に現在の池田カルデラの付近で火山灰や溶岩が相次いで噴出した。

約 6.4calkBP のカルデラ形成噴火時にはスコリアや軽石が噴出しており, 噴火様式は水蒸気噴火からマグマ噴火まで多様であった。また, 海域や河川沿いでは火砕流堆積物の 2 次爆発も頻発した。このように多様な

噴火が発生したのは、マグマ組成の多様性のみならず、噴火地点は水が豊富に存在する地形・地質の場であったことが重要な要素であったと考えられる。

- ・寄書「岩石学的特徴を利用した対比・同定の有効性：北海道東部、阿寒・屈斜路火山における大規模火砕流堆積物の露頭情報」

著者：長谷川健・中川光弘

北海道東部には第四紀カルデラが密集し、その周囲には多数の大規模火砕流が堆積しています。これらの給源、層序、分布、年代そして体積を決定する際、どのように露頭情報を活用したらよいか。新たな岩石学的データなどを加えながら議論します。

- ・寄書「霧島火山群、最近3万年間のテフラ模式露頭の提案」

著者：田島靖久

火山の噴火史を研究する際の最も基礎的な情報は、露頭で確認できる降下火砕物や溶岩などの堆積物の情報である。ただし、論文では、これらの情報が柱状図として洗練され、他の研究者が同じ露頭を検証することが困難となる場合がある。そこで、筆者が研究してきた霧島火山群3万年間の噴火史を理解する上で重要な露頭の画を2箇所示した。なお、これら2箇所には新記載のテフラもあり、本報においてその層準を明示した。

- ・口絵写真解説「阿多カルデラ周辺の露頭記載：特に重要と思われる地質情報」

著者：鈴木桂子

阿多火砕流堆積物は、鹿児島湾中部を中心として、大隅半島・薩摩半島に広く分布する大規模火砕流堆積物である。噴出物は、噴火初期の降下火砕物、火砕サージ堆積物、大根占周辺のみに見られる厚い非溶結堆積物、ground layer、乗り上げ構造、南薩海岸の粗粒岩相など、多岐にわたる岩相が観察される。それらの露頭は、近年土砂災害予防のためか、ほとんど失われてしまった。阿多カルデラ形成に伴った噴出物を理解する上で重要な露頭を口絵写真で紹介いたします。

- ・論説「1888年磐梯山水蒸気爆発に関するノート (3) 1888年の水蒸気爆発論考に潜むジレンマ」

著者：浜口博之・植木貞人・中道治久

明治21年磐梯山噴火は最大級の水蒸気爆発であった。以来120余年が経過したがこの爆発のメカニズムは未解明である。

なぜ長期間にわたり研究が膠着した状態のまま経過したのかその要因を考察した。

往時の研究者と対話する気持ちで論文等を読み、その背景をたどれば「磐梯山のジレンマ」と名づけた状況が明らかとなった。ジレンマの根底に横たわる仮定を吟味すると、19世紀初頭の西欧でのマグマの中の水の由来に関する歴史的論争が我が国の研究者に深く影響していることが判明した。論文ではこの温故知新の意味を含味した。

- ・解説紹介「マヨン火山1814年噴火200年記念会議および現地討論会の参加報告」

著者：小林哲夫・奥野 充・マリア ハナ ミラブエノ
フィリピンのマヨン火山は、火砕流や溶岩を頻繁に噴出するなど活発な噴火活動を続けているが、1814年には突然激しいプリニー式噴火がおこり、その直後に発生した火砕流やラハールで大きな災害をもたらした。今回の会議と現地討論会は、その200周年を記念して開催されたもので、海外や地元の研究、行政関係者、一般市民まで幅広い参加があった。会議に参加して、噴火災害の防止・軽減には、まず基礎的な研究が第一であるが、その成果を行政や地域住民へわかりやすく還元することも大切であると痛感した。また同時に三者が連携した地道な活動を継続して、住民の防災意識を高めなければならない。

- ・書評「井田喜明著「自然災害のシミュレーション入門」

著者：木村龍治

自然災害の原因となる地震・火山(噴火)・気象現象は研究や防災の現場では、現象を忠実に再現できるよう複雑なプログラムが開発・運用されている。本書は多くの人が自分でシミュレーションを実行して、その活用を考えてもらうために著者が「プログラムを自作してパソコンで再現してもらう」ことを意図した。各分野の基本的な関係式を基礎としたシミュレーションは読者に多くの視点を与えるだろう。

- ・日本の火山活動概況(2014年7月~8月)(2014年9月~10月)

- ・その他のニュース

- ・追悼文「一色直記さんのご逝去を悼む」

中野 俊

- ・平成27年度日本火山学会賞および日本火山学会研究奨励賞候補者の公募

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに1月5日送信しました)